

灘中校長室だより 令和8年9月29日

みんな Na 元気 Da

TEL: 0827-32-0211 Fax: 0827-32-0214

E-mail: nada-j@iwakuni.ed.jp

～地域を愛し、地域からも愛される、活力と感謝のあふれる学校～



校長 河村 泉

朝晩の気温もぐんと下がり、爽やかな秋風が吹いたり、夕暮れから鈴虫の音色が響いてきたりするなど、ようやく秋の気配を感じる季節となりました。

先日の体育祭では、悪天候での開催につき、皆様には大変ご心配とご迷惑をおかけいたしました。グラウンドコンディションが良ければ、もっと、思い切りやれていたのではないかと思う生徒も見られ、大変心苦しく思いました。然しながら、徒競走では、途中ぬかるみにはまり転倒した仲間のもとへ行き、全員が肩を組んでゴールをめざす生徒たちがいるなど、その友情のあり方に胸を打たれる場面もありました。悪天候・悪条件を物ともせず、互いに励まし合い、支え合って取り組んだ体育祭。全校生徒の団結力や絆も一層強くなったと確信しています。私にとっても、思い出深い体育祭となりました。保護者・地域の皆様には、実施の判断に対し、あたたかいご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

さて、少し前のことになりますが、9月8日に英語暗唱弁論大会岩国地区予選会が行われ、本校からは、2年生2名が暗唱の部に参加しました。二人とも自ら立候補し、夏休み中も、英語科の教員やALTからの助言を受けるなど、熱の入った練習を重ねて迎えた本番の舞台・美しい発音、役に入り込んだパフォーマンスなど、見事に物語の世界観を表現していました。また、9月12日・13日には、岩国地区新人体育大会が行われました。新チームになって初となる公式戦、どの競技においても灘中生の必死の戦いぶりを見ることができました。加えてその場に、引退した3年生と同級生である2年生のあたたかくも力強い応援が加わり、試合を一層盛り上げていたことも印象的でした。先にご紹介した英語暗唱も含めて、生徒たちは、相当の緊張や不安があったはずですが、それを見事に力に変え、勇気を奮い立たせ本番に挑戦しようとしていることが、非常によく伝わってきました。きっと、生徒たちにと

って、この日の記憶は深く脳裏に刻まれ、今後、辛いときや悲しいときの支えとなるはずです。勇気をもって挑んだことが、時を経て、自分を勇気づけてくれるものになる。このことに、何とも言えない人生の妙味を感じます。

大リーガーの大谷翔平選手を育てたとされる栗山英樹氏は、次のような言葉を仰っています。

「できるか できないかではなく、

やるか やらないかだ。」

結果にとらわれず、勇気と覚悟をもってひたむきに取り組むことの重要性を述べておられるのだと思います。その挑戦こそが、自分自身の可能性や能力を引き出し、新たな境地へと自分を押し上げてくれる原動力となります。そして、その過程に人間的成長があるのだと思います。生徒には、この心構えを忘れずに取り組んでほしいと思っています。

ところで、私は、時折図書室の本を借りることがあります。夏休み中に図書室を訪れると、かねてより読みたかった本で、先日逝去された東野圭吾さんの著書「クスノキの女神」が置いてあるのを見つけました。物語の展開に心を揺さぶられながら読み進めていくと、終盤に感動のクライマックスが待っていました。読了後は、大切な人を想うときのあたたかい気持ちや心寂しさが入り交じったような感情が胸に去来し、しみじみとその余韻に浸ることとなりました。

読書の効用は、ひと言で言い尽くせるものではありません。上述したように、本の世界に没入することで、まるで実体験をしているかのように心が揺れ動き、さまざまな情感が掘り起こされます。これも効用の一つであり、まさに読書は、心を耕し、心豊かに生きるための術であると言えます。折しも、「読書の秋」の到来です。SNSやゲームなどのスマホの利用時間を、僅かでも読書に充ててみることをお勧めします。子どもたちも、私たち大人も、たくさんの良書と出会い彩り豊かな人生を歩んでいきましょう。